



西井 英正

一般社団法人東北経済連合会 副会長

アフターコロナの東北・新潟

新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延によって、私たちの生活様式や仕事への取り組み方が大きく変わっているのは周知の通りです。仕事のリモート化等もあつという間に普及し、IOT、AI、ロボット化も将来の事ではなく、現実の事としてもものすごいスピードで進んできていると実感します。さらには、DX(デジタルトランスフォーメーション)による事業革新の推進等、つくづく、ヒトはピンチになると知恵を絞って対応するようになるのだな、と感じています。ワークライフバランスに関しても、言葉が先行していたのが、リモート他、働き方の多様性が生まれたことで、その価値を体験することになったと思います。

ガラ携をスマホが席卷したように、コロナが落ち着きを見せたとしても、時は元には戻らないのではないのでしょうか。移動時間のない仕事を体験することで、時間の価値がさらに見直されることになるでしょう。相対コミュニケーションは非常に重要だと思いますが、毎回である必要があるかとなり、使い分けが進むと考えています。

こういった状況の中で、オフィスや住居の地方移転という声が聞こえています。確かに私も、東北・新潟にとって千載一遇の、そして最後のチャンスかもしれないと思います。時間的距離や人口の密集度から考えると、東北・新潟は首都圏の受け皿として格好の立地ではないかと思えます。

ところで、都道府県の幸福度や生活満足度ランキングでは東北・新潟は幸福度での岩手県(24位)、満足度での宮城県(34位)を除き、押し並べてワースト10に入っています。一方、2020年の都道府県魅力度ランキングになると13位の宮城県を筆頭に、30位までに青森・秋田・新潟各県が入っています(2019年では岩手・福島・山形も30位以内でしたが、2020年では外れてしまいました)。この結果から、まずは東北・新潟にいる私たちが自己肯定感を高め、地元の良さを客観的に理解して、魅力を感じている域外の方々にその魅力を具体的に伝えることが出来るようになることが大切な気がします。

実際には、住環境や出産、育児、医療等の社会的インフラ、デジタル化、教育環境等、整備しなくてはならない課題は山積していますが、「人間らしい充実した生活を送ることで仕事の質も高めていく」というワークライフバランスの底上げに、この東北・新潟が最適だということを発信しなくてはなりません。

アフターコロナの世界は東北・新潟にとって新しい未来を拓くチャンスと捉え、域内の産官学を巻き込みながら、「控えめ」ではない東北・新潟に変身出来れば、その先に「希望」が待っているのではないのでしょうか。

(弘進ゴム株式会社 取締役社長・にしひ ひでまさ)